

野洲川

〔書言字考節用集一乾一坤〕野洲川ハナガ野洲郡

〔淡海温故錄野洲郡〕野洲川 上ハ甲賀郡伊勢界ノ谷峯ヨリ落テ、大川、原鮎川、黒川一ツニ成テ、一

ノ瀬川トナル、又鈴鹿峠ノ谷ヨリ蟹ヶ坂ノ庄ニ流レ出テ、田村明神ノ御前社ノ下ヲ流レ出テ、田

村川ト云、此兩川落合テ、中ヲ横田川ト云、川下此處ニテ野洲川ト云、

〔源平盛衰記十九〕佐々木取馬下向事

高綱ハ、略中 曉ハ守山ヲ立、野洲ノ河原ニ出ヌ、如法曉ノ事ナレバ、旅人モ未見ケルニ、草鞍置タル

馬追テ男一人見ヘ來ル、高綱和殿ハイヅクノ人ゾ、何ヘ渡ルゾト問ヘバ、是ハ栗太ノ者ニテ候ガ、

蒲生郡小脇ノ八日市ヘ行ク者也ト答、名ヲバ誰ト云ゾト問ヘバ、男怪氣ニ思テ左右ナク明サズ、

兎角誘ヘ問ケレバ、紀介トゾ名乗タル、高綱ハ、ヤ、紀介殿、此河渡ン程、御邊ノ馬借給ヘカシ、紀介

叶候ハジ、遙ノ市ヨリ重荷ヲ負セテ歸ランズレバ、我モ勞テ不乗馬也、又今朝ノ水ノツメタキ事

モナシ、唯渡リ給ヘト云、紀介殿、タゞ借給ヘカシ、悦ハ思、當ラント云ケレバ、略中 借テゲリ、高綱馬

ニ打乗、此馬コソ早我物ヨト思ツ、空悦シテ野洲川原ヲ渡ツ、鞭ヲ打テゾ歩セタル、

〔書言字考節用集一乾一坤〕名取川ナトリガ奥州名取郡

〔奥羽觀蹟聞老志五名取郡〕名取川

水源有二、一則出自同郡二道清泉嶽、經村落而東流、至閑上村而入于海、一則出自吾妻岳下行澤、而

合于野尻邑、其河流過中田驛北、仍曰中田川、夏秋之交、設魚梁、人數罟以捕細鱗、漁鮭魚、又世稱埋木

灰者、燒河中沈木用之、其色紫赤、於歌詠亦賞吟之者多、

〔東山志中〕中田 長町まで一里略中

名取川 土橋四十間餘、此名取川の埋木を燒て香爐の灰となす、此川は出羽最上界笹屋峠の邊

より流れ出て、一すぢは鎌口の上の山下より流れ、川崎の後を廻りて小野の邊にて二筋落入て、

陸奥國
名取川